



823

持子  
原

繪本  
越後傳吉寧録  
全

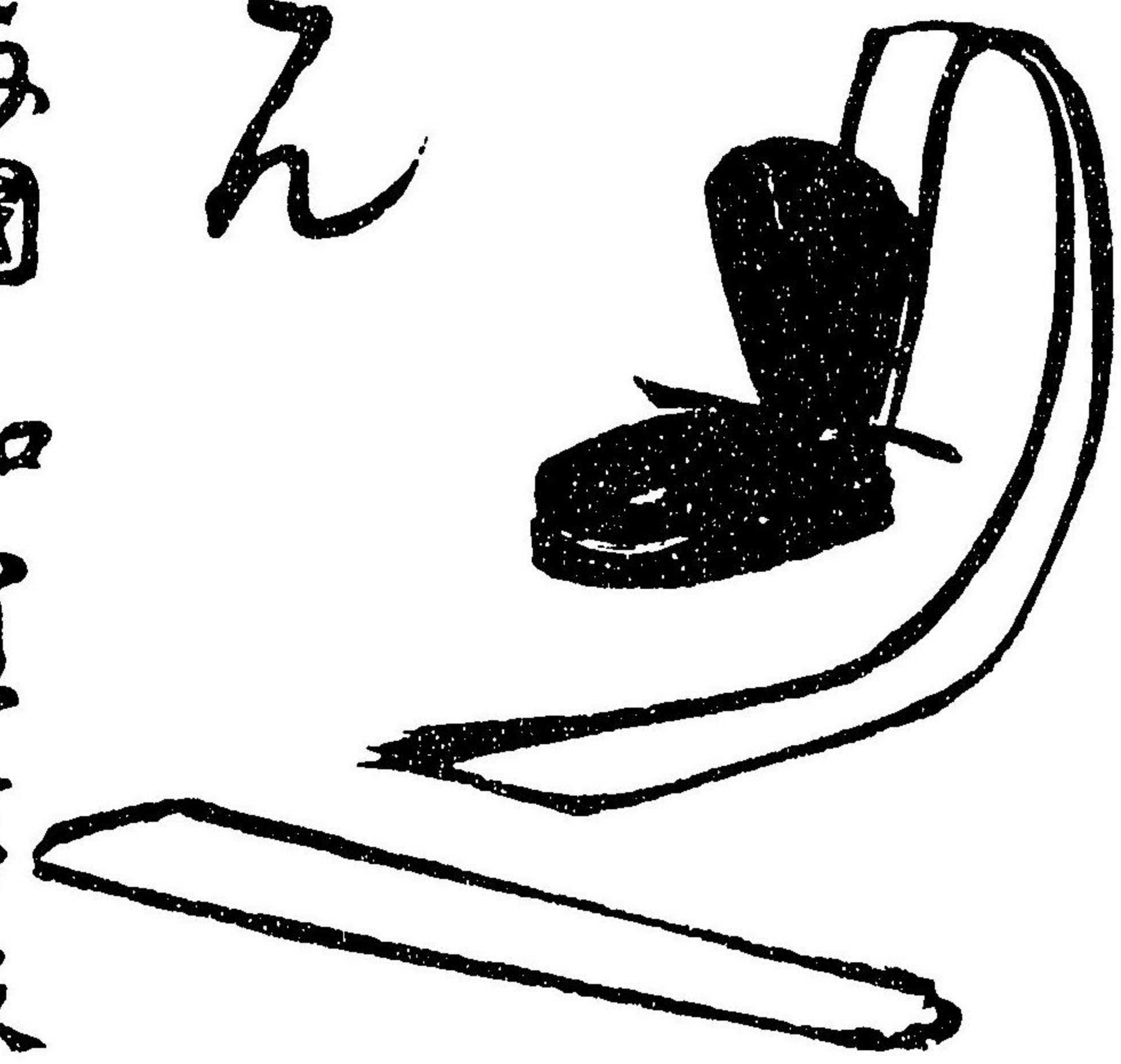
W26043/23



小

祝  
起  
ん

五國  
加賀  
吉版











幼少  
 父を  
 長ひ伯  
 父馮左  
 工門小  
 名主夜を  
 尊言れ  
 人の冊  
 孝  
 母  
 重  
 小か

おむめ

おそや

専五

五二



讀初  
 傳吉  
 越  
 後  
 郡  
 生  
 村  
 寶  
 田  
 家  
 主  
 の  
 名  
 代  
 家  
 主  
 の  
 名  
 代

宝田村傳吉

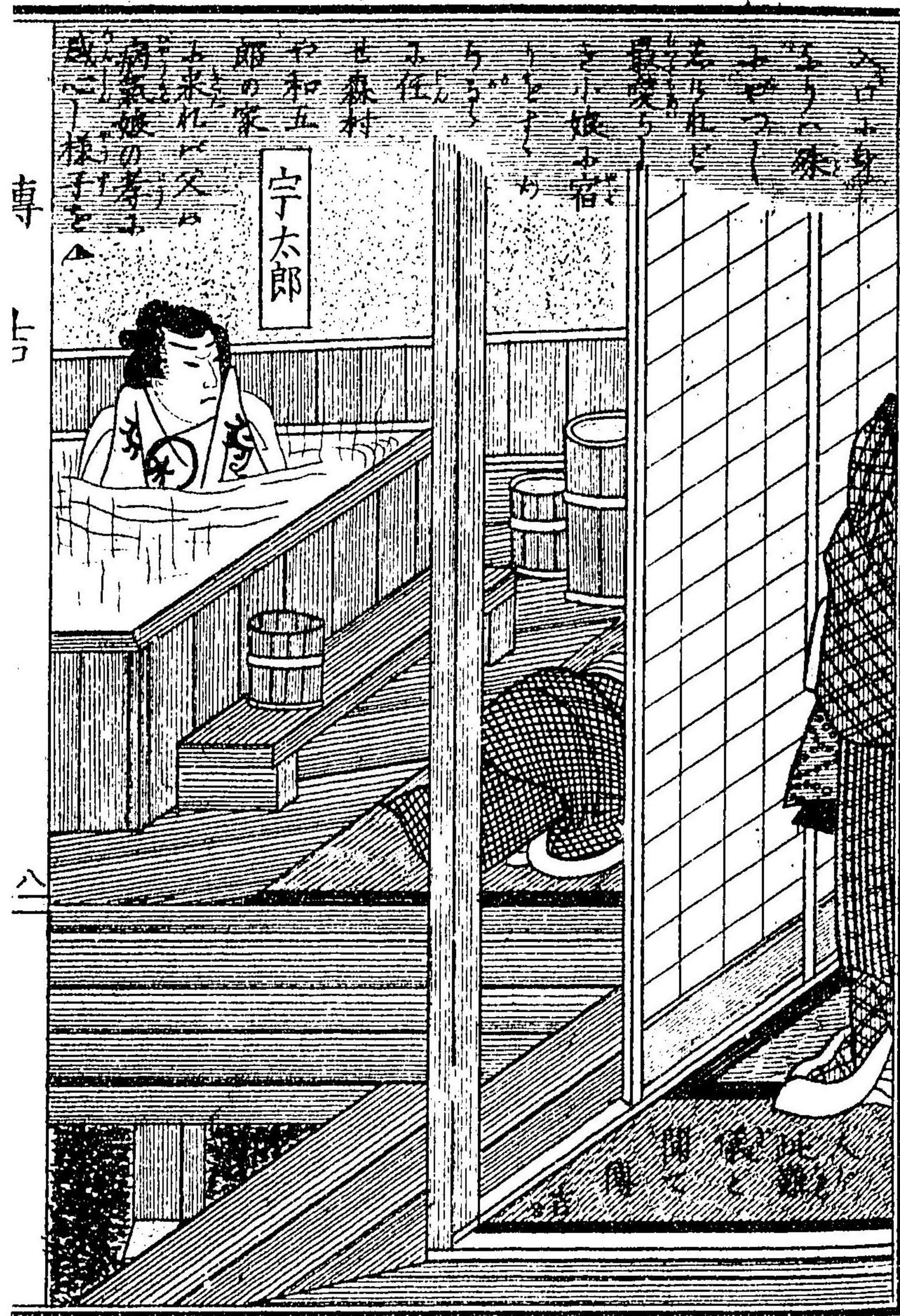
云  
 小  
 際

白彼  
 一人  
 の  
 娘  
 う  
 め  
 と  
 あり  
 全  
 心  
 ※  
 ※し  
 直  
 り  
 つ  
 ら  
 ん  
 次









宁太郎

専

山崎屋  
 小作  
 出で海  
 相談ふしと江戸へ出奉る  
 して金とらへ田地と少  
 とも取戻さ  
 んと故郷を  
 出で海  
 相談ふしと江戸へ出奉る  
 して金とらへ田地と少  
 とも取戻さ  
 んと故郷を



傳吉

不便  
 思ひ金  
 早朝  
 思ひ金  
 早朝

傳吉點頭て母の  
 遺言も有れば二人を  
 伴ひ國へ帰らるそす  
 を母としむ梅を妻と  
 して暮せし方小作をして  
 御針を取まとも飲事堀出さぬへ  
 相談ふしと江戸へ出奉る  
 して金とらへ田地と少  
 とも取戻さ  
 んと故郷を  
 出で海  
 相談ふしと江戸へ出奉る  
 して金とらへ田地と少  
 とも取戻さ  
 んと故郷を

傳



115





小ふぢ

守太郎

一日を以て彼を捕縛し、化無道に大あり  
 二三日を経て村中を呼酒宴を為る  
 とも彼金を取来りんと梅を授けし見  
 一されば自ら行て受取りんし行道  
 山をせんし出逢ひ様子を聞  
 怖持来りて口



津原  
 津原  
 津原

津原  
 津原  
 津原





門を娘婿郡代郡軍次  
梅を切

本梓河原へ引出さるる打  
とんと為る明いあきんの仙  
父松山與惣治の敵額おきり  
明司代松平伊賀守より早  
馬おて差止め江戸陣出夫  
岡越前守殿のおきり  
あり江戸小隠れ居し昌次  
郎お梅を捕へ伊貝源次を呼  
出し馬左工門昌次郎お梅い死罪  
郡代い私を以て善人を殺さんとし  
罪を以て死罪傳吉い許され名主とあ  
り

明治二十三年九月十日印刷  
年今月七日出版

日本橋區吉川町五番地  
著作兼 堤 吉兵衛  
發行者

